

2025 年度 認定留学 桐木

大学：Lapulapu-Cebu International College（ラプラプセブ国際大学）

私は、フィリピンのセブ島にある Lapulapu-Cebu International College（ラプラプセブ国際大学）に3か月間の留学をしました。この大学は2021年に開設されたばかりですが、フィリピンでも最大級の規模の大学で、多くの現地生徒、また様々な国からの留学生が在籍しています。校舎はとても広く、きれいで、敷地内に寮が併設されています。寮は、寮母さんや清掃員の方たちのサポートが手厚く、24時間万全の警備態勢でセキュリティの面においても心配することはありませんでした。フィリピンと日本ではカルチャーショックがとても大きいですが、この大学は食事、浴室、トイレなど、とても日本の文化に寄り添ってくれているので、とても過ごしやすかったです。インターナショナルの先生たちはとても明るくて接しやすく、若い人が多いので、先生ではなくお姉ちゃんとお兄ちゃんだと思ってなんでも相談してねとよく言ってくれました。生徒数は月によって変動がありますが、多い月（長期休みの期間）は500人ほどで、少ない月は30人ほどになるときもありました。多い月はいろいろな国、いろいろな地域の友達ができるので楽しいですが、少ない月でもより仲が深まるのでまた別の楽しさがありました。授業は6つのレベルに分かれて受けます。1か月で一つの授業が15コマ受けられる仕組みになっており、その月ごとに成績が出るので、自分のレベルに応じて月ごとにレベルを変えることもできます。実際に私は1か月に一つずつ、計二段階レベルを上げました。月ごとにレベルを変えられることで、のんびりと自分に合ったレベルで学習を進めたいという人はレベルを維持し、今のレベルよりも上げて自分を追い込みたいという人はレベルを上げることができます。授業は、英語はもちろん、フィリピンの文化に関する授業も履修し、様々な学びを得ることができました。授業の雰囲気はとても明るく、座学よりもアクティビティが多い印象でした。LCICは、他のフィリピンの詰め込み型の留学とは違い、夕方4時にはすべての授業が終わります。そのあとは、バディシステム（現地学生と一対一でお話ができる制度）や、1オン1（先生と一対一で個別指導をもらえる制度）を利用することができました。これらの制度を通して、現地学生や先生方とも仲良くなることができます。これらが無い日や休日は、日本人学生とはもちろん、他の国からきた留学生や現地学生の子たちとも食事やショッピングに行きました。セブはリゾート地なので、素敵なレストランや観光地、モールなどがたくさんあります。さらに地域によって風景や文化、人の様子が様々なので3か月滞在しても毎日新たな出会いの連続でした。

私は留学中、何事にも自ら積極的に取り組むことを意識しました。クラスも、積極的にレベルを上げていき、自分が少し難しいと思うぐらいの授業に必死についていくように努力しました。授業外でも先生やローカルの友達に話しかけに行きました。また、課外活動にもたく

さん参加しました。孤児院訪問や、スラム街の清掃のボランティア活動、ブートキャンプ、日本の文化を知る交流行事など、たくさんアクティビティに参加しました。授業で学んで、日常でそれを実践し身につける。ネイティブが常に身の回りにいる海外だからこそできる英語の身に着け方を実践するよう、心掛けていました。

もし今留学を考えている方がいたら、留学前に勉強をしっかりとしておくことをお勧めします。留学を通して、もちろん新たな学びも多いですが、何よりも元々の知識としてもっていたものを使うことで定着していく、実際に使えるようになっていく、という感覚が強いです。留学前にしっかりと知識をインプットしておくことで、留学がより充実したものになり、留学期間中の英語力の伸び方も全く違ったものになると思います。留学に学びに行くのではなく、アウトプットしに行くつもりで行くと良いと思います。